



教育厚生委員会報告



2025 年 2 月議会

第 14 号議案 2025 年度一般会計予算

総額 2,413 億 4,000 万円



学校等施設包括管理費 1 億 1,896 万円

今年 4 月から学校等施設包括管理委託が始まります。これは、学校等施設の修繕や保守点検と庁務業務を包括的に民間事業者へ委託するものです。

これまで学校ごとに発注していた修繕業務は受託事業者が施工業者を選んで再委託することになります。その結果、受託事業者にとって使いやすく安く請け負う業者やキックバックに応じるような業者にばかり仕事が流れ、これまで学校のために良心的に対応してくれていた地元業者に発注されなくなるのではないかと心配されます。

市は過去の学校の発注実績に基づき、その 8 割をこれまで仕事をしてきた地元業者に再委託することを求めていると答弁。そして実際に履行されているかどうか、モニタリングを頻繁に行うと答弁しました。



学校や子どもたちのために頑張ってくれた地元業者がこれからも活かされるようモニタリングの結果を注視していきたいと思います。

また学校庁務員も 4 月から 10 校で受託業者からの派遣となります。働き方改革に逆行することのないよう見守りたいと思います。



学校徴収金管理費 1,136 万円

ようやく学校徴収金(教材費やスポーツ振興センター掛金など)の口座振替が 4 月から全校で始まります。これで学校でお金を集めることはなくなります。保護者もおつりのないよう現金を用意する手間が省けますし、児童生徒も紛失のリスクがなくなります。何より学校の事務負担が軽減するのが嬉しいです。



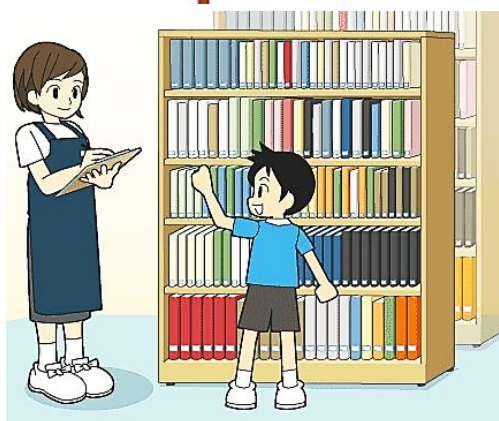
包括的性教育推進費 54 万円

すべての中学校で外部講師を招聘して包括的性教育を実施できる予算がつけました！今後毎年継続していくこと、さらに小学校へも拡大していくことが求められます。





学校の多様な支援スタッフの増員、充実



学校教育の充実、教職員の働き方改革のために新年度予算では多様な支援スタッフの増員が図られました。スクール・サポート・スタッフは6名から20名へ、特別支援教育支援員は10名増の160名に、



別室支援員は全希望校71校に、図書館司書は5名増の38名に、部活動指導員は倍増の38名に、等々です。ただ学校現場からはまだまだ足りないとの声が上がっています。



また多様な支援スタッフの方々の待遇がよくないことも問題です。雇用形態は会計年度任用職員という非常勤か短時間勤務。報酬も不十分ですし、多くの職種は夏休みなどの長期休業のたびに雇用が切られます。報酬も途切れますし、そのたびに保険の切り替えが必要になり

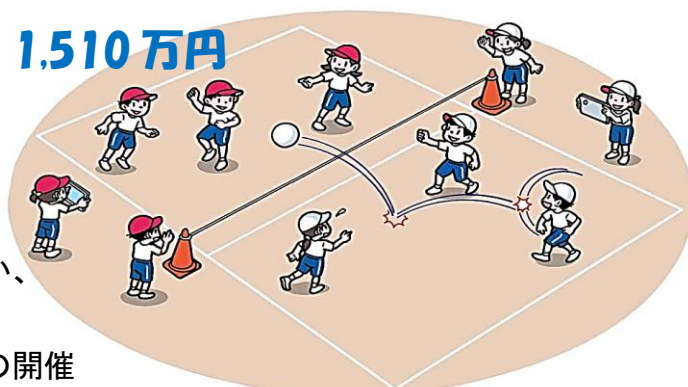


ます。学校は「待遇が悪すぎて人が見つからず枠はあっても配置されないことがある」と言います。待遇改善とさらなる増員を求められます。



小大会開催費負担金 1,510万円

市内全部の小学校6年生が集まって行われる小大会の開催費です。中総体は日頃取り組んできた部活動の集大成として必要だと思いますが、小大会が果たして必要なのか、これまでも問題になっていました。



委員会では、小大会はバスの確保や雨天時の開催

熱中症防止や教職員の働き方改革など課題を多く抱えていると説明がありました。であればいっそやめればいいのかと思うのですが、種目を変えて継続するというのですから驚きです。これまでの陸上、サッカー、バスケット、長なわ、球入れの5種目から、ターゲットボッチャ、フットホッケー、プレルボールなど初めて聞く種目に変更すると言います。しかし種目を変更しても課題の多くは解決しません。

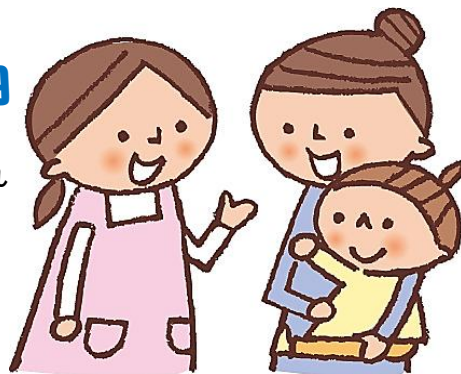


審議の前に小学校の先生方にご意見を伺いましたが、全員が「やめていい」と即答。「一番お金のかからない働き方改革」という現場の声も伝えて中止を求めましたが、今年度は開催される見込みです。



こども誰でも通園事業費補助金 2,240 万円

2025 年度から「こども誰でも通園制度」が始まります。これは 6 か月から満 3 歳未満の子どもが、月 10 時間程度を上限として保育所等に通園できる制度です。保護者の就労要件は問いません。現行の保育所の一時預かりは、保護者の事情で預けるのに対し、今回の「誰でも通園制度」は、子どもたちの社会性を高めるのが目的と説明がありました。



保育所は年度初めは定員に空きがあるものの、年度途中はいまでも待機児童が出ている状況で、また保育士不足が深刻な中で、子どもを預かる余裕があるのか、就労している保護者が預けられなくて困るという事態にならないのかを質したところ「就労している保護者が優先」という答弁でした。今年度は 40 園で始まり、来年度は全保育所に拡大するそうです。



子どもを守る取組推進費(子ども相談アプリ導入) 242 万円

いじめや不登校、ヤングケアラーなど多様な課題を抱える子どもの相談窓口として 2024 年度から「長崎市こども相談センター」が設置され、教職員や臨床心理士など専門職が相談を受けています。電話やメールでも相談を受けていますが、子どもからの相談手段は 8 割が「LINE」といいます。しかし「LINE」の推奨年齢は 12 歳以上のため小学生は「LINE」の利用ができないそうです。そこで学習者用端末にチャット形式で相談できるアプリを導入するため、モデル校で検証を行い来年以降に全校導入を目指すという説明がありました。



相談受付時間は「8:45～17:30」といいます。これは市職員の勤務時間ですが、果たしてその時間帯に学校に通っている子どもが相談できるでしょうか。相談窓口にアクセスしてくる子どもは、親にも学校にも知られたくないはずです。子どもたちが一人になれる時間帯を考えて対応しなければ、子どもたちの悩みは拾えないと思います。学習用端末を使用することが妥当なのかも疑問が残ります。時間帯については実証実験の中で検討すると答弁がありました。



放課後デイサービス 31 億 4,900 万円

放課後デイサービスは、放課後や夏休みなどに、障がい児に療育と居場所を提供する施設で、年々増加しています。障がいを持つ子どもたちにとってなくてはならない重要な場所になっています。他方、放置や虐待、排除など問題のある施設もあり質にばらつきがあることが指摘されています。今度開設する(仮称)こども発達センターなどで事業者や職員に対する研修等を実施し、子どもたちが適切な療育と居場所を確保できるよう求められます。





5 歳児健診費 3,607 万円

今年度から五歳児健診が始まります。これまでは3歳児健診以降は就学時健診まで健診がなく、子どもの発達に不安を抱える保護者が相談する機会が不十分だったりと、



あるいは子どもの特性に保護者が気付かないまま小学校に入学して不適應になったりするケースが増えていました。五歳児健診で、相談の機会や保護者の気づきを促す機会を確保し、子どもの特性に合わせた適切な支援を実施しようとするものです。5歳になる幼児が対象で、市役所2階、三重地区市民センター、琴海南部文化センター、東部地区にこにこセンター、健康づくりセンターなどで6月から実施予定です。



(仮称)長崎市こども発達センター開設

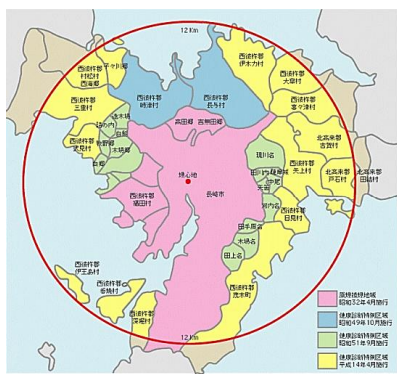
新年度からハートセンターに「(仮称)こども発達センター」が開設されることになりました。これまでハートセンターの小児科は初診待機期間が長すぎるという問題がありました。

(昨年11月の時点で約6月待ち)。そこで小児科の医師・看護師等スタッフを増員し、早期診療・療育をめざすことになりました。あわせて専門職員を増員し、気軽に相談できる体制の整備や、関係機関への指導助言も行うことになりました。

また児童発達支援センター「さくらんぼ園」も職員体制を強化し、従来の通所に加え市内保育所等を訪問し専門的支援を行う地域の中核的な療育施設として機能強化を図るとされています。さらに講演会の実施などにより発達障がいに対する市民への普及啓発も行うそうです。こども発達センターも「ハートセンター」「さくらんぼ園」のように愛称をつけて、市民が利用しやすい施設をめざします。



被爆体験者支援費 12 億 1,436 万円



昨年12月から「被爆者並み」という触れ込みで始まった、被爆体験者の新たな医療制度の予算です。この制度によって癌を含むほぼすべての疾病に医療費が支給されることになりました。しかし体験者の健康診断には癌検査は含まれておらず、また福祉系のサービスもなく、とても被爆者並みとは言えません。しかも新しい医療手帳を取得できた被爆体験者は2月末で7割しかいません。その原因を市は「周知不足と手帳を必要としていない」と説明しますが、「申請をしなければならぬ」からだと思います。被爆体験者は平均年齢85歳。高齢や健康面の理由で、申請そのものが難しい人がたくさんいるはず

です。本来であればプッシュ式で新しい手帳を交付すべきなのにそれをしない冷酷で差別的なこの制度に憤りを禁じえません。制度改正が必要です。そして被爆80周年の今年、被爆体験者問題の根本的解決、つまり被爆体験者を被爆者と認めることを強く求めました。



原爆資料館展示更新

実施設計費 2,478 万円+制作・施工費 4 億 7,620 万円

原爆資料館の展示更新の実施設計費と制作・施工費合わせて 5 億円が計上されました。展示更新は 23 年度に基本計画作成、24 年度に基本設計、25 年度に実施設計、26 年度に制作・施工と段階を経て進められています。しかし今回、昨年度予算でつくられた基本設計はまだ完成していないのに、次とそのまた次の予算まで要求するのです。私は内容の説明もできない状況で予算は審議はできないと思います。右図の簡単な配置図だけを示されて市民の税金 5 億円の予算をつけるわけにはいきません。審議がストップし、市は後日、基本設計(案)を説明し、何とか予算が計上されました。



寒い冬もようやく終わり、春の陽気が心地よい季節となりました。

いよいよ新年度がスタートします。

新しい 1 年が、みなさまにとって素晴らしい年となりますように。